

ごあいさつ

参加と協働による 持続可能なまちづくりを



京都市長
門川 大作

「市民・区民が主役のまちづくり」
私は市長就任以来、この方針を軸に市政に邁進してまいりました。

そして、未曾有のコロナ禍の中、改めてこの言葉の大切さを噛み締めています。コロナ危機と、収支不均衡の構造が続いてきたことによる財政危機。

本市は今、この「2つの危機」に直面。同時に、人口減少や地球温暖化など様々な社会課題にも立ち向かっているところです。区民の皆様が心強いお取組の一つ一つが、あらゆる困難を乗り越え、より良い社会を目指すための大きな力となります。

上京区が誇る「文化」と「絆」を基にしたこの基本計画で、地域の明るい未来と笑顔を創る。その笑顔は、やがて京都市全体へと広がり「誰一人取り残さない」社会につながっていく。そんな素敵な未来を、共に描いてまいりましょう。

結びに、本計画の策定に御協力いただいた方々、貴重な御意見を寄せてくださった全ての皆様に、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。



京都市上京区基本計画推進会議
議長

上林 研二

私は、京都市上京区基本計画推進会議の議長として、「上京区基本計画2025」策定の現場近くにおりましたことから、区民の皆様が計画への感想を述べさせていただけます。

計画策定に当たり、上京区が抱える問題などの現状把握から、計画原案の案出までの作業は、林前上京区長を先頭に、職員の皆様の参画によつて、区域の隅々まで目配りされたうえで、まとめられました。

私の記憶では、かつてなかった態勢であり、驚きでした。

また、17学区社協（住協）や、各種団体の活動内容の把握、その中にある先進的活動の抽出にも精力的でした。

分野ごとの考察方法・視点のちがちなごの指導は、同志社大学の新川先生をはじめ5人の学識者の皆様によつて行われ、「京都市上京区まちづくり円卓会議」等での白熱した議論も取り入れながら、原案の完成度を一段と高めました。

そして、仕上げ作業は、多くのパブリック・コメントによる原案の再検討です。英知の結集された「住民が主人公」の本計画は、こうして誕生しました。

令和のはじめの基本計画に深い敬意と祝意を表し、原上京区長を先頭に、一緒に歩もうではありませんか。



上京区長
原 真弓

このたびの「上京区基本計画2025」は、上林研二議長を先頭に、区内17学区をはじめ関係団体の皆様、学識者の皆様に参画していただき、また、小学生から大人まで、立場や世代を超えた多様な区民の皆様から御意見をお伺いして策定することができました。改めて、感謝申し上げます。

本計画は、今後5年間の上京区のまちづくりの羅針盤として、人口減少社会や「人生100年時代」の到来、生活様式の多様化や脱炭素社会の実現など、日常を取り巻くさまざまな情勢を踏まえるとともに、コロナ禍をも新たな契機と捉え、「誰一人取り残さない」持続可能な上京区の未来を創造することを基本理念としています。

これから、上京区の強みである「文化力」や「地域力」を生かし、本計画に掲げる4つの将来像、「幸せを分かち合うまち」「安心安全に暮らせるまち」「にぎわいを創出し、豊かさを実感できるまち」「ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち」の実現に向けて、区民の皆様とともに新たなまちづくりを進めていく決意です。何卒よろしくお願いいたします。